「今日のソ連邦」昭和60年４月１日号（第28巻・第７号・通巻628号）付録

ソ連共産党中央委員会臨時総会

（1985年３月11日）



ソ連共産党中央委員会書記長
Ｍ・Ｓ・ゴルバチョフ

「今日のソ連邦」1985年第７号第２付録

コンスタンチン・チェルネンコの逝去に関する ソ連共産党中央委員会、ソ連最高会議幹部会、ソ連閣僚会議の公報

ソ連共産党中央委員会、ソ連最高会議幹部会、ソ連閣僚会議は、深い悲しみの念をもって党と全ソ連国民に通知する。一九八五年3月10日19時20分、コンスタンチン・ウスチノビチ・チェルネンコ・ソ連共産党中央委員会書記長・ソ連最高会議幹部会議長が重病ののち逝去した。

共産党とソビエト国家のすぐれた活動家、共産主義の理想と平和をめざす不屈の闘士コンスタンチン・ウスチノビチ・チェルネンコの名は、ソ連の人々と全世界の進歩的人士の心に永久に生き続けるであろう。

ソ連共産党中央委臨時総会に関する公報

本日（3月11日）、ソ連共産党中央委員会臨時総会が開催された。

党中央委政治局の委託により、ミハイル・ゴルバチョフ・ソ連共産党中央委政治局員・書記が総会の開会を宣した。

コンスタンチン・チェルネンコ・ソ連共産党中央委書記長・ソ連最高会議幹部会議長の逝去に関連して、総会参加者は一分間黙禱してコンスタンチン・チェルネンコを追悼した。

総会は、ソ連共産党と全ソ連国民が大きな損失を受けたことを指摘した。党と国家の傑出した活動家、愛国者、国際主義者、地上における共産主義の理想と平和の勝利をめざす首尾一貫した闘士が世を去った。

コンスタンチン・チェルネンコの全生涯は最後までレーニンの党と事業、ソ連国民の利益にささげられた。党が彼をどこへ派遣しようとも、彼は変わりなく持ちまえの献身性をもってソ連共産党の政策の実現をめざしてたたかった。

コンスタンチン・チェルネンコは発達した社会主義の改善、経済・社会発展の大きな課題の解決、ソ連国民の福祉と文化の向上、大衆の創造的な積極性の一層の高揚、イデオロギー活動の改善、規律・法体系・秩序の強化に向けられた方針の首尾一貫した実現に多くの注意を払った。

コンスタンチン・チェルネンコは兄弟社会主義諸国との全面的な協力の一層の発展、社会主義的経済統合の実現、社会主義共同体の地歩の強化に大きな寄与を加えた。彼の指導のもとで社会体制の異なる諸国家の平和共存の諸原則が首尾一貫着実に実現され、帝国主義の侵略的なもくろみに断固たる反撃が加えられ、帝国主義によって押し付けられた軍拡競争の停止、核戦争の脅威の排除、諸国民の確実な安全の保障をめざす闘争が展開された。

コンスタンチン・チェルネンコは、わが共産党の統一、中央委員会とその政治局の活動の集団的性格をこの上なく大切にした。彼は党がすべてのレベルで結束し、整然とした戦闘的な組織として活動することをつねにめざしていた。彼は共産党員の思考と行動の統一に、われわれのすべての成功と欠陥克服の保証、前進の保証があると見ていた。

総会は、この悲しみの日々に共産党員、すべてのソ連国民が、党中央委員会とその政治局のまわりにさらに緊密に結集していることを強調した。ソ連の人々は十分な根拠をもって党の中に、社会の指導的、先導的な力を見いだし、ソ連共産党のレーニン的内外政策の実現のために献身的にたたかう決意にみちている。

中央委総会の参加者は、故人の近親者に深い哀悼の念を表明した。

中央委総会は、ソ連共産党中央委書記長選出の問題を審議した。

中央委政治局の委託によりアンドレイ・グロ

ムイコ政治局員がこの問題について発言し、ミハイル・ゴルバチョフをソ連共産党中央委書記長に選出することを提案した。

総会は全会一致でミハイル・ゴルバチョフをソ連共産党中央委書記長に選出した。

続いて総会ではミハイル・ゴルバチョフ・ソ連共産党中央委書記長が発言、書記長のポストへの選出という高い信頼を寄せられたことに対し深い感謝の念を表明し、それに伴う責任がいかに大きいかを非常によく理解している、と述べた。

ミハイル・ゴルバチョフはソ連共産党中央委員会に対し、わが党、わが国民、偉大なレーニンの事業に忠実に奉仕し、ソ連共産党の綱領的指令を不断に実施するために、ソ連の経済力と防衛力をさらに強化し、ソ連国民の福祉を高め、平和を固めるという課題を解決する上での継承性を確保するために、共産党とソビエト国家のレーニン的内外政策をねばり強く実現するために全力を尽くすであろうと発言した。

これをもって総会は議事を終了した。

ソ連共産党中央委臨時総会でのミハイル・ゴルバチョフの演説

親愛な同志の皆さん！

われわれ全員が、全党、全国家が沈痛な悲しみに見舞われた。忠実なレーニン主義者、ソ連共産党とソビエト国家、国際共産主義運動の傑出した活動家、思いやり深い心と大きな組織的才能をもった人、コンスタンチン・ウスチノビチ・チェルネンコが世を去った。

コンスタンチン・ウスチノビチ・チェルネンコは大きな栄光の道を歩んだ。党が彼に委ねた一つ一つの部署で彼の才能、人々と共に働く能力がますます十分に発揮された。ソ連共産党中央委書記長、ソ連最高会議幹部会議長のポストにあって、コンスタンチン・ウスチノビチ・チェルネンコは国の経済の発展、国民の福祉と文化の向上、祖国の安全の確保、地上の平和の維持と強化にそのすべての力と知識を傾注した。

コンスタンチン・チェルネンコは、共産党の統一、中央委員会とその政治局の活動の集団的性格をこの上なく大切にした。彼は党がすべてのレベルで結束し、整然とした戦闘的な組織として活動することをつねにめざしていた。彼は共産党員の思考と行動の統一に、われわれのすべての成功、欠陥の克服の保証、前進の保証があると見ていた。

ソ連共産党第26回大会とその後の中央委総会でユーリー・ウラジミロビチ・アンドロポフとコンスタンチン・ウスチノビチ・チェルネンコの精力的な参加のもとで作成された戦略的路線は、不変であったし、今も不変である。それは、国の社会・経済的発展の促進、社会生活のすべての側面の改善をめざす路線である。生産の物的・技術的基盤の変革が懸案となっている。

経済関係をはじめとする社会関係のシステムの改善が懸案となっている。人間そのものの発展、人間の生活と労働の物的条件、精神面の質的向上が懸案となっている。

われわれは、国民経済を集約的発展の軌道に移す上で決定的な転換を成し遂げることを迫られている。われわれは、短期間に最も進んだ科学技術上の地位に、社会的労働生産性の世界最高レベルに是非とも達しなければならない。

この課題をより順調に、速やかに解決するためには、経営メカニズムと管理システム全体を今後もねばり強く改善していく必要がある。この道を歩み、最適の解決を選ぶにあたっては、社会主義的経営の基本原則を創造的に適用していくことが重要である。それはつまり、経済の計画的発展を一貫して実施し、社会主義的所有を強化し、権利を拡大して、企業の自主性を高め、仕事の最終的な結果に対する企業の関心を強めることである。それは、すべての経済的発展を終極的にはソ連の人々の利益に従わせることを意味する。

党は、党が練り上げた社会政策を変わることなく実施していく。すべてを人間のため、人間の福祉のために――この綱領的命題は、ますます深い具体的な内容に満たされなければならない。人間の生活条件の改善が、共通の事業へのその増大する一方の貢献に立脚したものでなければならないことは明らかだ。この原則からの逸脱を許している所では、社会主義社会の統一と安定の最重要の要素である社会的公正が必然的にやぶられている。

党は、民主主義、国民の社会主義的自治の全システムの一層の改善と発展を、国内政策の主要課題の一つとみなしている。

ここでは課題は多岐にわたっている。この面では少なからぬことが行われている。ここで言われているのは、ソビエトの役割の向上、労働組合、コムソモール、人民監督、労働集団の活発化のことである。しかし、すでに定められた方向でも、新しい方向でも、ねばり強い活動が待ち受けている。

社会主義的民主主義を深めることは、社会的自覚を高めることと緊密に結びついている。教宣活動の効果は、労働者、コルホーズ員、知識人が大小の問題の解決にどのように参加し、どのように欠陥とたたかっているかに現れる。ソ連人の労働および社会的積極性の向上、規律の強化、愛国主義と国際主義の育成――全イデオロギー活動の成果はまさにこれによって測られる。

そのさい今後とも秩序の一層の確立、われわれの生活には無縁の現象や社会とその市民の利益に対するあらゆる侵害の一掃、社会主義的適法性の強化のために断固たる措置が講じられるであろう。

われわれは今後とも、党、ソビエト、国家諸機関と社会諸団体の活動の公開性をもっと拡大していかなければならない。レーニンは、大衆の自覚によって国家は強くなると述べた。われわれの実践はこの結論を完全に裏付けた。人々が情報に通じていればいるほど、彼らはそれだけ自覚をもって行動し、それだけ積極的に党を、その計画と綱領的目標を支持する。

対外政策分野におけるわれわれの路線は明確である。それは、平和と進歩の路線である。

党と国家の第一の義務は、われわれの親密な戦友であり同盟者である偉大な社会主義共同体諸国との兄弟的友好を大切にし、鋭意強化することである。われわれは社会主義諸国の協力の拡大、世界的な問題における社会主義の役割と影響力の向上のために全力を尽くすであろう。われわれは中華人民共和国との関係の抜本的な改善を望んでおり、これは相互主義のもとで十分に可能だと考えている。

ソ連は植民地主義の抑圧からの解放をめざす諸国民の闘争をつねに支持してきた。今日もわれわれの共感は独立の強化と社会的改革の道に沿って進んでいるアジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の側にある。われわれにとってこれらの諸国は、恒久平和、諸国民間のよりよい公正な関係をめざす闘争における友人であり、パートナーである。

資本主義諸国との関係については、次のことを述べたい。われわれは平和と平和共存のレーニン的方針に断固従っていく。ソ連はつねに善意には善意で、信頼には信頼でこたえるだろう。しかし、われわれがわが祖国とその同盟者の利益を絶対に放棄しないことを、すべての者が知るべきである。

われわれは七〇年代に達成された国際緊張緩和の成果を評価し、同権、相互尊重、内政不干渉の原則にもとづく国家間の平和的互恵協力の確立プロセスの継続に参加する用意をもっている。この方向での新たな措置によって、ヒトラー・ファシズムと日本軍国主義に対する偉大な勝利40周年をそれにふさわしく記念することができるだろう。

今日のように恐るべき脅威が人類に差し迫ったことは、これまでに一度もなかった。現状から抜け出る唯一の理性的な道は、地上において軍拡競争――なによりもまず核軍拡競争をただちに停止し、宇宙においてそれを許さないことについて相対立する勢力が合意することである。相手側を〝ゲームで負かして〟自己の条件を押し付けようとすることのない誠実で平等な基盤にもとづく合意である。望ましい目的――核兵器の完全な廃絶と永久禁止、核戦争の脅威の完全な排除に向かってみんなが前進することに役立つ合意である。このことをわれわれは、強く確信している。

明日ジュネーブでソ連と米国の交渉が開始される。この交渉に対するソ連のアプローチはよく知られている。ここで改めて次の点を確認できるだけだ。われわれは米国やＮＡＴＯ諸国に対する一方的優位の達成、これらの国々に対する軍事的優位をめざしていない。われわれは軍拡競争の継続ではなく停止を望んでいる。だから核兵器庫を凍結し、ミサイルの一層の展開を停止することを提案している。われわれは宇宙であれ地上であれ、次から次へと新たな体系の兵器を開発することではなく、蓄積された軍備の実際の大幅削減を望んでいる。

ジュネーブ交渉でのわれわれのパートナーがソ連の立場を理解し、相互主義でこたえることを望みたい。そのとき協定は可能なものとなろう。世界の諸国民は安堵の胸をなでおろすであろう。

ソ連共産党はその本質からして国際主義の党である。外国のわれわれの同志は、平和と社会進歩をめざす闘争でレーニンの党がいつも通り共産党、労働者党、革命民主主義党などの兄弟諸党と緊密に協力し、すべての革命勢力の統一と活発な協力をめざしていくことを確信してよい。

同志の皆さん、われわれが直面している複雑な課題の解決は、党の一層の強化、組織し、方向づけをする党の役割の引き上げを前提としている。ソ連共産党は、原則的政策が唯一の正しい政策であるというレーニンの考えからつねに出発してきたし、今もそれを出発点としている。

集団で策定されるこの政策は、一貫して、断固実現されていくであろう。党はまさしく、すべての階級と社会グループ、国内のすべての大小民族の利益を考慮し、これらを一つに団結させ、共産主義的創造という共通の事業に国民のエネルギーを動員する能力をそなえた勢力にほかならない。

党の政策は、労働者階級とコルホーズ農民と知識人の同盟の強化、われわれの偉大な多民族国家の諸民族の友好の一貫した強化をめざしてきたし、今後もめざしていく。

ソ連共産党は青年の創造的イニシアチブを極力伸ばし、女性の労働条件や生活条件の改善、参戦軍人や労働のベテランたちの必要や要求に配慮していく。

複雑な国際情勢のもとでかつてなく重要なのは、ソ連とその同盟諸国の安全、ソ連人の平和な生活を侵害すれば壊滅的な報復攻撃を受けるということを、潜在的侵略者にはっきり知らせるような水準に、われわれの祖国の防衛力を維持することだ。われわれの光栄ある軍隊は今後もそのために必要なすべてのものを保有していくだろう。

いまソ連共産党第27回大会の準備が広範に進められている。この大会では党綱領の新稿が検討され、次期5カ年計画期と二〇〇〇年までのわが国の発展の見通しが明確にされるだろう。

時は上級から下級までのすべての党組織の緊張した、創造的な活動を要請している。共産党員は、すべての部署で、いたるところで、市民的義務の遂行、社会の利益のための誠実な労働、レーニン的活動スタイルの厳守の模範とならなければならない。このことは何よりもまず党の幹部要員、党と国家の指導者にあてはまる。ソ連共産党は一貫して厳格さを強め、委託された仕事に対する責任感の向上をはかる方針をとっていく。

本総会が終了すれば、中央委員、各州委員会第一書記、すべての総会参加者は、新たな活力をもって仕事に取り組むため、各地に向けて出発する。仕事は少なくない。まず第一に本年度の経済社会発展計画を遂行する作業を首尾よく完了し、それによって次期5カ年計画の確実なスタートを保証しなければならない。

厳冬のせいで一連の部門で計画課題の実現が若干遅れた。したがって、未達成の仕事をなしとげ、年度末に予定していた目標に到達するため、いま態勢を固め、余力を動員し、全力を傾けなければならない。

同志の皆さん、今日われわれは、共産党員の隊列がいかに強力で一枚岩であるかを、わがソ連国民がいかに団結し、統一しているかを、これまで以上に鋭く感じている。先日の選挙でソ連国民は、わが党と国家の路線に対する全員一致の支持を改めて表明した。この支持はわれわれを励ますとともに、義務を課している。

本日、中央委員会総会は、ソ連共産党中央委員会書記長という複雑で大きな職務を私にゆだねた。私に寄せられた信頼がいかに大きく、それにともなう責任がいかに大きいものであるか

は、よくわかっている。今後の活動では中央委員会政治局員、政治局員候補および書記の皆さん、党中央委員会全体の支持と積極的援助を期待する。皆さんの多面的な経験は、わが国民の歴史的経験の集大成である。わが党、わが国民、偉大なレーニンの事業に忠実に奉仕するために全力を尽くすことを、同志の皆さんにお約束する。

ソ連共産党第27回大会を前に、中央委員会のまわりに団結した国民と党が、わが祖国ソ連をさらに豊かに、強力にするため、社会主義の創造力をいっそう完全なものにするために全力を尽くすであろうとの確信を表明させていただきたい。

ミハイル・ゴルバチョフ新書記長の略歴

ミハイル・セルゲーエビチ・ゴルバチョフは、一九三一年3月2日、スタブロポリ地方クラスノグバルジェイスコエ地区プリボリノエ村の農民の家庭に生まれた。

大祖国戦争（一九四一ー四五年）後まもなく、15歳で勤労活動を始め、機械・トラクター・ステーション（ＭＴＳ）の機械取扱員として働く。五二年、ソ連共産党に入党。五五年、ロモノーソフ記念モスクワ国立大学法学部を、六七年にスタブロポリ農業大学を卒業し、農業・経済の専門家となる。

五五年以降、コムソモール（共産青年同盟）・党活動に従事。スタブロポリ地方で活動し、スタブロポリ市コムソモール委員会第一書記、スタブロポリ地方コムソモール委員会宣伝部副部長、同第二書記、第一書記を歴任。

六二年3月、スタブロポリ地域生産コルホーズ・ソフホーズ局の党オルグに抜擢され、同年12月、同地方党委員会の党機関部長に任命される。

六六年9月、スタブロポリ市党委員会第一書記に選出。六八年8月以降、スタブロポリ地方党委員会第二書記として働き、七〇年4月、同第一書記に選出される。

七一年以降、党中央委員。第22回、第24回、第25回、第26回の各党大会の代議員をつとめる。七八年、党中央委書記に、七九年、党中央委政治局員候補に選出。八〇年10月、党中央委政治局員候補から政治局員に昇進。第8ー11次ソ連最高会議代議員、連邦会議外交委員会議長をつとめる。第10ー11次ロシア連邦共和国最高会議代議員。

ミハイル・ゴルバチョフは、共産党とソビエト国家のすぐれた活動家であり、党から任されたあらゆるポストにおいて、持ちまえの創意とエネルギーと献身ぶりを発揮して働き、自分の知識、豊かな経験、組織者としての才能を党の政策の実現のためにささげ、レーニンの偉大な事業と勤労国民の利益のために献身的に奉仕している。

共産党とソビエト国家への功績に対して、レーニン勲章（3回）、10月革命勲章、労働赤旗勲章、栄誉章および各種のメダルを授与されている。

『今日のソ連邦』
一九八五年4月1日号付録
発行人　加藤宣幸
編　集　ソ連大使館広報部
（郵便番号141・東京都品川区東五反田
3―9―13・電話03―447・3536）
印刷・発行所　（株）新時代社
（郵便番号101・東京都千代田区神田神
保町1―44・電話03―293・4881）